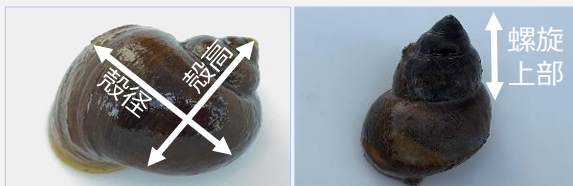


# スクミリンゴガイの被害防止に向けた対策

近年、暖冬の影響によりスクミリンゴガイ（通称：ジャンボタニシ）の越冬量が多く、これまで以上に水稲への被害が目立っています。また、発生が見られなかった地域でも、新たに発生が確認されており、発生地域が拡大しています。被害を減らし、生息地を拡大させないためにも、地域の実状に応じて種々の防除法を組み合わせ、防除を徹底しましょう。

## スクミリンゴガイの生態について

- 【形態】
- リンゴガイ科の一種で、成貝は殻高2～7cm程度になります。
  - 在来のタニシよりも、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高の長さがほぼ同じ点で見分けられます。



在来タニシとの見分け方

スクミリンゴガイ（左）と在来タニシ（右）

- 【産卵】
- 卵は濃いピンク色でよく目立ちます。
  - 卵塊は200～300個程度の卵から形成されます。ふ化後、約2か月で繁殖が可能となり、条件が良ければ3～4日に1度産卵します。
- 【越冬】
- 水温15～35℃で活発に活動しますが、寒さに弱く、14℃以下では活動を停止します。冬期は、ほ場や用排水路の土中に潜って越冬します。
- 【被害】
- 柔らかい植物を好むため、田植直後から3週間程度までの水稲を食害します。



イネに産卵された卵塊



被害が目立つほ場

## 主な防除法について

地域の実状に応じて防除技術を組み合わせましょう

### 収穫後～移植前

- 冬期の耕うん： 厳冬期前のロータリー耕うんにより貝を物理的に破壊するとともに寒風にさらします。耕うんピッチを小さくし、低速（0.2km/h程度）で土壌を細かく砕くようにすることで殺貝効果が高まります。  
(右図は白く着色した貝殻を埋設し、耕うん速度の違いによる貝の破壊率を比較したもの)



### 移植時～移植後

- 浅水管理： 水深が浅いと活動を制限できるため、水深を4cm以下に維持しましょう。
- 薬剤防除： 被害が出る前の移植時に散布しましょう。

※薬剤防除に当たっては、必ず登録薬剤を使用し、使用時期や使用方法、使用量などの適用条件を守りましょう。

## 発生地の拡大防止に向けて

- 農業機械の洗浄： 未発生ほ場への貝の持ち込みを防止するため、発生ほ場で農業機械を使った後は、泥をしっかりと洗い落としましょう。

スクミリンゴガイの生態や防除法について、より詳しい情報は、農林水産省発行「スクミリンゴガイ防除対策マニュアル（移植水稲）」をご参照下さい。  
詳細：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/index.html>

### 滋賀県病害虫防除所

TEL:0748-46-4926  
Email:GC70@pref.shiga.lg.jp  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>